



Tokyo Kosei Wind Orchestra

60th
Anniversary Tour
楽団創立60周年記念ツアー

Takeshi Ooi
conductor

<https://www.tkwo.jp/>





Tokyo Kosei Wind Orchestra

60th Anniversary Tour

楽団創立60周年記念ツアー

東京公演

(第151回定期演奏会)

11月7日(土) 14:00

東京芸術劇場 コンサートホール

主催：佼成文化協会 東京佼成ウインドオーケストラ
後援：一般社団法人全日本吹奏楽連盟、東京都吹奏楽連盟、
公益社団法人日本吹奏楽指導者協会、
公益財団法人日本音楽教育文化振興会、
一般社団法人日本管打・吹奏楽学会、
一般社団法人日本吹奏楽普及協会、株式会社日本コロムビア、
株式会社テレビマンユニオン、公益財団法人としま未来文化財団

大阪公演

(第5回大阪定期演奏会)

11月8日(日) 15:00

ザ・シンフォニーホール

主催：佼成文化協会 東京佼成ウインドオーケストラ、
ザ・シンフォニーホール

広島公演

11月10日(火) 18:30

広島文化学園HBGホール (広島市文化交流会館)

主催：佼成文化協会 東京佼成ウインドオーケストラ
共催：株式会社オギハラ音楽企画
後援：中国新聞社、中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、
テレビ新広島、広島県吹奏楽連盟、
(株)ヤマハミュージックリテイリング 広島店、(株)広島アーツ楽器

福岡公演

11月11日(水) 18:30

アクロス福岡シンフォニーホール

主催：佼成文化協会 東京佼成ウインドオーケストラ
後援：福岡吹奏楽連盟、九州吹奏楽連盟、西日本新聞社、
朝日新聞社、毎日新聞社、(株)ヤマハミュージック福岡店、
クレモナ楽器、福岡地区明るい社会づくり運動協議会

札幌公演

11月17日(火) 18:30

札幌市教育文化会館 大ホール

主催：佼成文化協会 東京佼成ウインドオーケストラ
後援：北海道吹奏楽連盟、札幌地区吹奏楽連盟

山形公演

11月19日(木) 18:30

やまぎん県民ホール (山形県総合文化芸術館)

主催：佼成文化協会 東京佼成ウインドオーケストラ
共催：山形県総合文化芸術館オープニング事業等実行委員会
後援：山形県吹奏楽連盟

新潟公演

11月20日(金) 18:30

りゅーとぴあ・コンサートホール (新潟市民芸術文化会館)

主催：佼成文化協会 東京佼成ウインドオーケストラ、
公益財団法人新潟市芸術文化振興財団
後援：新潟市教育委員会、新潟県吹奏楽連盟

Program | プログラム

吹奏楽のための第一組曲 [計約11分]

G.ホルスト／伊藤康英 校訂

First Suite in E flat for Military Band, Op.28-1 / Gustav Holst / Yasuhide Ito

- I : シャコンヌ Allegro moderato
- II : インテルメッツォ(間奏曲) Vivace
- II : マーチ Tempo di Marcia

水面に映るグラデーションの空 [約11分]

芳賀 傑

Le ciel dégradé se dissout à la surface de l'eau / Takashi Haga

リンカンシャーの花束 [計約16分]

P.グレインジャー／F.フェネル 校訂

Lincolnshire Posy / Percy Grainger / Frederick Fennell

- I : リスボン(船乗りの歌) Lisbon (Sailor's Song)
- II : ホークストウ農場(守銭奴とその召使:地方の悲劇) Horkstow Grange' (The Miser and His Man: A local Tragedy)
- II : ラフォード公園の密猟者(密猟の歌) Rufford Park Poachers (Poaching Song)
- IV : 元気な若い水夫(恋人と結婚するために帰郷した) The Brisk Young Sailor (who returned to wed his True Love)
- V : メルボルン卿(戦いの歌) Lord Melbourne (War Song)
- VI : 行方不明のお嬢さんが見つかった(踊りの歌) The Lost Lady Found (Dance Song)

休憩 [20分] Intermission

吹奏楽のための交響曲第3番 [TKWO委嘱初演] [計約35分]

保科 洋

Symphony No.3 for Symphonic Band [Commissioned work by Tokyo Kosei Wind Orchestra] / Hiroshi Hoshina

第1楽章 : レント・ミステリオーズ〜アレグロ・アッサイ Lento misterioso ~ Allegro assai

第2楽章 : レント・フレビレ Lento flebile

第3楽章 : プレスト・エネルジコ Presto energico

注意

- ・本コンサートは、会場の観客の皆様を撮影する場合がありますこと、および収録された映像がインターネット、DVDなど各種媒体で公開・販売されることを予めご了承下さい。
- ・ホール内での飲食、許可のないビデオ・写真撮影、および携帯電話・スマートフォンでの撮影はご遠慮ください。
- ・携帯電話・時計のアラームなど音の出る電子機器は電源をお切りください。
- ・演奏中のプログラムをめくる音、お客様同士での会話など音を発する行為は他のお客様のご迷惑となることがありますのでご配慮下さい。

東京佼成ウインドオーケストラでは、政府・各自治体およびホールの方針に基づき、最大限の感染予防と拡大防止のための対策を実施した上で、本公演を開催いたします。詳細につきましては、当団オフィシャルサイト掲載の【重要】感染症予防対策についての取り組みとお願いをご覧ください。

本公演に関する
アンケートへ
ご協力ください。



Profile | 指揮者プロフィール

大井 剛史

Takeshi Ooi
conductor



©K. Miura

1974年生まれ。17歳より指揮法を松尾葉子氏に師事。東京藝術大学指揮科を卒業後、99年同大学院指揮専攻修了。若杉弘、岩城宏之の各氏に指導を受ける。96年安宅賞受賞。スイス、イタリア各地の夏期講習会においてレヴァイン、マズア、ジェルメッティ、カラブチェフスキーの各氏に指導を受ける。2000年～2001年、仙台フィルハーモニー管弦楽団副指揮者。2007年～2009年、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団にて研修。2008年アントニオ・ペドロッチ国際指揮者コンクールで第2位入賞。2009～16年ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉(現・千葉交響楽団)常任指揮者、2009～13年山形交響楽団指揮者、2013～17年同正指揮者を歴任。現在、東京佼成ウインドオーケストラ正指揮者。このほかほとんどの国内主要オーケストラを指揮し、多彩なレパートリーとその誠実な指揮でいずれも高い評価を得ている。オペラの分野では、在学中より新国立劇場、東京二期会などのオペラ公演で副指揮者を務め、2002年「ペレアスとメリザンド」(ドビュッシー)を指揮しデビュー、以降多くのオペラ作品を指揮するほか、ミュージカル「ウエスト・サイド・ストーリー」(バーンスタイン)も指揮。バレエの分野では「ロメオとジュリエット」(プロコフィエフ)などで新国立劇場バレエ団の公演を度々指揮、国内を代表するバレエ団やダンサーが一堂に会した「NHKバレエの饗宴」でも指揮を務めた。さらに、小松原庸子スペイン舞踊団や、野村萬斎、花柳壽輔、井上八千代といった日本舞踊界の名手たちと共演するなど、幅広い舞台芸術分野で活躍している。東京藝術大学音楽学部器楽科非常勤講師(吹奏楽)。尚美ミュージックカレッジ専門学校客員教授。

Program Notes | 曲目解説 — 富樫鉄火(音楽ライター)

G.ホルスト／伊藤康英 校訂

吹奏楽のための第一組曲

TKWOは、本曲を、創設6年目の1966年4月、第4回定期演奏会で取り上げている(水島数雄指揮、日比谷公会堂)。その後、1970年3月の第11回定期でも演奏されたが(宇宿充人指揮、日比谷公会堂)、3回目の演奏が、TKWOの命運を大きく変えることとなった。1982年3月、アメリカの名指揮者フレデリック・フェネル(1914～2004)が初めて招聘され、第30回定期(新宿文化センター)で本曲を指揮したのだ。このときの出会いでフェネルとTKWOは意気投合し、1984年の常任指揮者就任につながるのである(のちにTKWO桂冠指揮者)。

フェネルは、本曲の発掘者といっても過言ではない。自身が創設したイーストマン・ウインド・アンサンブルを指揮して、1955年に、『第二組曲』とあわせた世界初の商業録音を米マーキュリー・レーベルからリリースしているのだ。それだけに、本曲に対するフェネルの思い入れはたいへん強く、「もしバンド曲の本当の指揮者になりたいというならば、このスコアを完璧に勉強して、(略)この曲と生活し、あらゆる方法をとおして身につけるべきであろう」とまで述べている(『ベーシック・バンド・レパートリー』より、フレデリック・フェネル著／秋山紀夫訳、佼成出版社刊)。

【誕生の経緯など】

組曲《惑星》などでおなじみ、イギリスのグスタヴ・ホルスト(1874～1934)による、あまりにも有名な曲だが、実は、作曲や初演の経緯は、ほとんどわかっていない。一説には1909年に作曲され、さるフェスティヴァルで初演されたという。また、1920年6月23日に王立軍楽学校バンドが演奏したとの記録があり、曲名に「for Military Band」(軍楽隊のための)と付されていることから、王立軍楽学校のために書かれたとの説も有力。

本曲は、よく「クラシック系の作曲家が、ほぼ現代の吹奏楽編成で書いた最初の作品」といったような紹介のされ方をしますが、オリジナルは、やはり、いまの編成とはかなりちがっていた。たとえばサクソフォンはアルトとテナーの各ワン・パートのみで、オプション(なしでも演奏可能)扱いだった。また、低音部には「ボンバルドン」(低音金管「オフィクレイド」)にバルブを付けた、チューバの前身のような楽器)が指定されていた。

そのため、後年、楽譜が出版されるたびに、その時代や国の編成にあわせて楽器編成も改訂されてきた。やがて1970年、ホルストの自筆譜が発見されたのを機に、イギリスの作曲家コリン・マッシュューズによる、バリトン・サクソフォンなどを加えた、新たな現代編成に校訂された。TKWOも、長年、この版を使用してきたが、本日は伊藤康英校訂版で演奏される。これは、日本のベテラン作曲家、伊藤康英(1960～)が、大英図書館でマイクロ・フィルム化されている自筆譜を徹底研究・校訂し、「自筆譜に準拠しつつ、現在の吹奏楽で演奏できる」原典版として監修したもので、現在もっとも信頼できるスコアとされている。

【曲の構成】

全曲は3楽章構成で、計10分強の小品ながら、見事な完成度を示している。フェネルは前掲書で「まさに吹奏楽を書く手法の限界にせまっておき、[彼に軍楽隊での経験があったという事実を証明することはできないが、もし経験がなかったとしたら、彼が操った手法や巧妙さを理解することはむずかしいように思える]と述べている。

I：シャコンヌ

「シャコンヌ」は、元来は古い3拍子の舞曲だが、その後、低音部の主旋律を基調とする変奏曲となった。作曲当時、ホルストは古楽を研究していたので、その影響だともいわれている。冒頭、低音部が8小節のシンプルな動機を奏でる。これが16回繰り返され、変奏を展開する。この冒頭の4音が、後続の楽章でも形を変えて登場し、全曲に統一感を持たせている。

II：インテルメッツォ(間奏曲)

前楽章の主題冒頭から派生した旋律をもとに、速いテンポで展開する。様々な動機が奏でられるが、終結部で、それらがすべて再登場し、落ち着いた終わる見事な構成。

III：マーチ

Iの冒頭部を逆行させた動機ではじまる。前半部は金管でプラスバンド風に展開し、中間部は木管中心の柔らかなアンサンブルとなる。後半は、その2つが合体し、華やかで力強いコーダを迎える。

【参考資料】『吹奏楽のための第1組曲 委亦長調[原典版]』伊藤康英／校訂・解説(日本楽譜出版社刊)

芳賀 傑

水面に映るグラデーションの空

フランスのリールで開催された、第6回(2018年)クー・ド・ヴァン国際交響吹奏楽作曲コンクールで第1位と聴衆賞を受賞し、作曲者の名前を一躍、世界に知らしめた名曲。

作曲家・芳賀傑(1989～)は、愛知県立芸術大学卒業。高校時代に吹奏楽部で、真島俊夫《三つのジャボニスム》(TKWOが2001年に初演)を知って感動し、作曲家を志すようになった(ちなみに、上述のコンクールでは、2006年に、真島俊夫《鳳凰が舞う～印象、京都 石庭 金閣寺》がグランプリを受賞している)。ほかにも、東京国際室内楽作曲コンクールや、日本管打・吹奏楽学会作曲賞などで多数受賞している。

本曲は、2011年の東日本大震災や、作曲者がパリ留学中の2015年に発生したパリ同時多発テロ事件などがきっかけとなって生まれた。繊細なアンサンブルで美しく展開する曲で、作曲家自身は「大切な人を失った者の涙は、今もなお世界中で流れ続けているのだろうか。／その一方で私はずっと悩み続けている。何の為に、誰の為に生きているのか。／生きている意味があるのだろうか。それを考えさせられるにはその2つの事件は十分だった。／そして私にできる唯一の事は、優しい音を書く事だった」と述べている。

曲は前半と後半に大きく分かれる。前半は、まさに静かな水面を思わせる表現がつづく。「1つの雫が水面に落ちる所から始まる。／雫は、波紋を描きながらますます落ちてくる。／水面に落ちる雫、それは涙」。

後半は、美しくメロディアスに展開し、「水面に落ちた涙が、境目のない空と水面のようにいつか、世界をひとつのグラデーションで繋げる事を信じてこの曲を書いた」との願いが描かれる。

なお、作曲者は「すべての犠牲になった命に、そして2016年に亡くなられた最も尊敬する作曲家、真島俊夫氏に捧げます」と述べている。

本日は、2020年東京佼成ウインドオーケストラ特別版として、オリジナル・スコアにはない、コントラバス・クラリネットを加えた特別編成で演奏される。

P.グレインジャー／F.フェネル 校訂

リンカンシャーの花束

TKWOが初めて本曲を取り上げたのは、1984年11月の第35回定期演奏会で、この指揮もフレデリック・フェネルであった(東京厚生年金会館)。フェネルは、本曲もホルスト同様、イーストマン・ウインド・アンサンブルを指揮して米マーキュリー・レーベルからLPをリリースしている(1958年録音)。よって事実上、フェネルによって広まったような曲である。なおこの盤は、1977年に「ステレオ・レビュー」誌により、「レコード誕生100周年/ベスト50」の1枚に選出されている。

フェネルは、1991年4月の第48回定期でも演奏(Bunkamuraオーチャードホール)、その後は、ダグラス・ボストック(常任指揮者/首席客演指揮者)によって3回演奏されており、TKWOにとっても重要なレパートリーとなっている。もちろん使用スコアはフェネル校訂譜である。

【誕生の経緯など】

オーストラリア生まれのパーシー・グレインジャー(1882~1961)は、当初は名ピアニストとして、主にイギリスを中心にヨーロッパで活躍した。しかし1914年、第1次世界大戦が勃発すると、アメリカへ移住し、ニューヨーク大学の音楽学部長をつとめるなどして、終生を彼の地で過ごした。このアメリカ時代に軍楽隊に所属し、サクソフォンなどを担当、本格的に「吹奏楽」を知った。本曲は、《木陰の散歩道》で知られる作曲家・指揮者のフランコ・ゴールドマンの委嘱で書かれたもの。1937年に、アメリカ吹奏楽指導者協会の全国大会で、作曲家自身の指揮で初演された。

曲は、イギリス時代に収集した、イングランド東部、リンカンシャー地方の民謡がモチーフになっている。グレインジャーは、当時登場したばかりの蝸管式録音機を抱えて、民謡研究者・歌手のルーシー・ブロードウッド(1858~1929)とともに、民謡歌手を訪ね歩き、大量の録音・採譜をおこなった。本曲は、そこからの6曲で構成された組曲だが、時折、不思議な変拍子や節回しが登場する。これは、実際に歌ってくれた民謡歌手の唱法を再現したもの。徹底的な菜食主義者で、ブラジャーをデザインしたり、ピアノ3台を含む管弦楽編成を考案したり、車に乗らず走って移動するなど、奇人ぶりでも有名だったグレインジャーの面目躍如たる名曲である。

(敬称略)

【曲の構成】

I : リスボン(船乗りの歌)

軽快な海の歌。初稿の曲名は(ダブリン湾)だったが、グレインジャーは、なぜか「リスボンと読め」としており、いまはその題になっている。他に合唱版や木管五重奏版もある。

吹奏楽のための交響曲 第3番

保科 洋

この交響曲は「東京佼成ウインドオーケストラ」の創立60周年を記念して委嘱されました。作曲家にとって交響曲を作るということは特別な意味を持っています(少なくとも私にとっては)。委嘱された時点から奮い立つような緊張感とともに、歴代の大作作曲家たちが残した数々の名交響曲が頭の中を駆け巡り、言い知れぬプレッシャーがのしかかってくるのです! 他の曲の時の様に無心に気ままに筆を進められないのが交響曲なのです!

● 第1楽章

やや長いミステリアスでドラマチックな序奏ではじまり、Allegroの主部へと続きますが、この序奏には第1楽章の主要なモチーフが潜んでいます。

発するそばから消えてしまう「音」で構築する、という宿命から逃れられない音楽では、作曲家は己の意図を如何にして聴き手に印象付けるか? が常に求められます。この命題を克服するために歴代の作曲家たちが編み出した答えは、伝えたい内容のエッセンス(通常はテーマであったりモチーフという小さな構成要素)を「繰り返し聴かせる」ということでした!(例えば、古今のあらゆる音楽形式で「繰り返し」という概念を含まない形式はありません。音楽形式とは如何に繰り返すか、

の方法論なのでから)

しかし、ただ単純に繰り返すだけでは印象付けどころか、むしろ拒否反応を起こさせるのが関の山でしょう(くどくど商業ソングを聴かされる様なもの)。如何に今聴こえている先へ関心を持たせつつ、できることなら美的感動を伴って聴いてもらえるか、この作曲技法の最重要かつ基礎的なテクニックは、「巧妙に変形して繰り返す」ということでした。この序奏で提示したモチーフを主部以降でどのように変形し、繰り返し聴かせ手に印象付けることができるか、さらには説得力を持って共感を得ることができるか、交響曲とはこの命題を達成するための最適かつ最高の試練の場なのです。

● 第2楽章

Lento flebile(ゆっくりと、哀感を帯びて)と記した叙情楽章です。日本の最高峰の吹奏楽団である「東京佼成ウインドオーケストラ」の委嘱ですので、様々な楽器にソロを吹いていたことに致しました。音楽の原点は「歌」と私は思っています。各プレイヤーの「歌心」をぜひお楽しみください。

Lento flebileの指示は、~人生も終わりに近づいた老人(私)が、夕日が眩しい庭のテラスでコーヒーを飲み

II : ホークストウ農場(守銭奴とその召使い: 地方の悲劇)

がめつい農場主人と下僕の悲劇を歌う叙情歌。

III : ラフォード公園の密猟者(密猟の歌)

2本の同じ旋律が1小節ずれて奏される。フーガのようなカノンのような、不思議な曲。

IV : 元気な若い水夫(恋人と結婚するために帰郷した)

マーチ風の明るく健康的な曲想。一種の変奏曲。

V : メルボルン卿(戦いの歌)

一部が小節なしのフリー記譜で書かれており、ほぼすべての小節が複雑な変拍子からなっている。歌ってくれた民謡歌手の唱法を再現したのだといわれている。

VI : 行方不明のお嬢さんが見つかった(踊りの歌)

これのみ、ルーシー・ブロードウッドが自分の乳母から聞き書きした歌による。民謡が原曲とはいえ、1937年当時にこれほど個性的な吹奏楽曲を書いていたことに驚かされる。他に合唱版もある。

ながら、過ぎ去った青春の日々に想いを馳せている~という様な情景を描いたつもりです。84歳の老人の心境は想像しにくいかとは思いますが、皆さんりの青春を思い出しながら聴いてくださると嬉しいです。なおこの楽章は、自作の「秋の木ノ葉」というトロンボーン、ユーフォニウムとピアノのための独奏曲を基にして作りました。

● 第3楽章

Presto energico(急速に、エネルギッシュに)のロンド形式の終楽章です。歴代の交響曲の終楽章とは内容に分かりやすくスピード感のある曲が多い様です(マーラー交響曲第9番やチャイコフスキー交響曲第6番「悲愴」の様な例外もありますが)。それは交響曲の様

に内容の濃い曲を長時間聴くのは神経が相当疲れるので、最後にパズルの様に難解な曲を聴かされても聴覚神経が持たない、という生理学的な配慮からの先人の知恵ではないでしょうか。作曲家も聴き手も、もちろんプレイヤーも人間ですから、30分間もの長い緊張の後では耳も集中力も最初の楽章とは違わずです。私の終楽章も前例にならなくて分かり易い曲想と形式を探りましたが、が、私はその中に人生(不条理・不可思議なもの)へのささやかな抵抗をひそかに盛り込んだつもりです。

しかし、曲の受け止め方・楽しみ方とは聴く人によって千差万別でしょう。皆さんはどの様に聴かれるでしょうか。実は、これも作曲家のひそかな楽しみの一つなのです(万人の舌に合う料理なんてあるのでしょうかね?)。

保科 洋 Hiroshi Hoshina, Composer

1960年、東京芸術大学作曲科卒。卒業作品にてその年の第29回毎日音楽コンクール作曲部門(管弦楽)で第1位を受賞する。以後、本格的に作曲活動を始める。かたわら、東京音楽大学、愛知県立芸術大学、兵庫教育大学で教鞭をとり、2001年3月に兵庫教育大学を定年退職する。作品は管弦楽曲、オペラ、吹奏楽曲、室内楽曲、合唱曲、ミュージカルなど幅広いが、特に吹奏楽曲では日本を代表する作曲家の一人として知られ、作品のいくつかはアメリカでも課題曲に登録されるなど世界各国で演奏されている。特に2008年11月にイタリアで開催された国際ホルンコンクールにおいて本選の必須課題曲に「巫女の舞」(ホルン協奏曲)が選ばれ、世界各国のホルン奏者によって熟演された。指揮活動も「フィルハーモニックウインドズ浜松」や「シエナ・ウインドオーケストラ」をはじめ幅広く行っているが、特に、アマチュアを対象とした指導法はそのユニークな演奏解釈理論とともに定評があり、岡山大学交響楽団の常任指揮者を50年以上もの長きに亘って続け、日本有数の大学オーケストラに育て上げたかたわら、客演指揮者としても全国各地のオーケストラや吹奏楽団で活躍している。2017年からは、保科洋指揮法クリニックを兵庫県加東市で主催し、全国のスクールバンドや市民音楽団指揮者にアマチュア演奏団体を指揮するための指揮法の指導を行っている。このような長年にわたる教育・指導活動が評価されて、平成27年度秋の叙勲において「瑞宝中級章」が授与された。また、平成28年度春には兵庫県文化功労賞を授与された。兵庫教育大学名誉教授、浜松アクト音楽院吹奏楽部門音楽監督、フィルハーモニックウインドズ浜松音楽監督。



Profile | 楽団プロフィール



東京佼成ウインドオーケストラ Tokyo Kosei Wind Orchestra

1960年(昭和35年)5月、立正佼成会附属の「佼成吹奏楽団」として発足、その後1973年に「東京佼成ウインドオーケストラ」へ改称した日本が世界に誇るプロ吹奏楽団。吹奏楽オリジナル作品、クラシック編曲作品やポップス、ポピュラーまで幅広いレパートリーの演奏を通し高い音楽芸術性を創出し、多くの人々が楽しめる管楽合奏を展開、各地のコンサートで好評を博している。

また多くのレコーディング、テレビ・ラジオに出演し、吹奏楽文化の向上・普及・発展に尽力している。2020年に楽団創立60周年を迎え、同年1月より大井剛史が正指揮者、トーマス・ザンデルリンクが特別客演指揮者、飯森範親が首席客演指揮者、藤野浩一がポップス・ディレクターに就任。

退団のご挨拶



1986年3月入団以来34年間、「世界最高の吹奏楽団」に在籍できました事を誇りに思います。在籍中は多くの事を学ばせていただき、また多くの方々との素晴らしい交流は私の音楽人生の宝となっております。皆様には心より感謝申し上げます。

私事、今後はフリーランサーとして細々と活動を続けて参ります。また皆様にお会いできます事を楽しみにしております。

Horn 木村 淳

Members | 演奏者名簿

桂冠指揮者 …… フレデリック・フェネル
正指揮者 …… 大井剛史
特別客演指揮者 …… トーマス・ザンデルリンク
首席客演指揮者 …… 飯森範親
ポップス・ディレクター …… 藤野浩一

指揮 …… 大井剛史
演奏 …… 東京佼成ウインドオーケストラ

Piccolo …… 丸田悠太(Flute)*	Baritone Saxophone …… 板尾克樹
Flutes …… 前田綾子(Piccolo)、 岩佐和弘(Piccolo)、白石法久	Trumpets …… 奥山泰三、ガルシア安藤真美子、 本間千也*、河原史弥、関健太、 川村大、中村諒、松田美由貴
Oboes …… 宮村和宏、是澤悠	Horns …… 上原宏、木村淳、堀風翔*、 小助川大河、小田原瑞輝、
English Horn …… 藤井貴宏	Tenor Trombones …… 今村岳志*、石村源海、宮原健輔
Bassoons …… 福井弘康、垣内紀子	Bass Trombone …… 佐藤敬一朗
Contra Bassoon …… 君塚広明	Euphoniums …… 岩黒綾乃(Bariton)、齋藤充
Clarinet in E♭ …… 木内倫子	Tubas …… 近藤陽一、久保和憲
Clarinet in B♭ …… 小倉清澄、大浦綾子、林裕子、 太田友香*、亀居優斗、 草野裕輝(Clarinet in E♭)、 佐藤拓馬、福井萌、野田祐太郎	Contrabass …… 前田芳彰
Alto Clarinet …… 瀧本千晶(Clarinet in B♭)	Timpani …… 坂本雄希*
Bass Clarinet …… 有馬理絵*	Percussion …… 秋田孝訓、渡辺壮、和田光世、 木下卓巳、定成庸司、市東章代、 藤井里佳、山口大輔
Contra Bass Clarinet …… 原浩介	Harp …… 三浦麻葉
Alto Saxophones …… 田中靖人(Soprano Saxophone)、 林田祐和、高橋龍之介	
Tenor Saxophones …… 松井宏幸、 完戸吉由希(Bass Saxophone)	

(※=演奏委員)

名誉楽団長 …… 庭野光祥	マネージャー …… 遠藤敏、井小萩浩之
楽団長 …… 林總太郎	ステージマネージャー …… 今井慎吾、勝川本久
佼成文化協会長 …… 菅野泰正	ライブラリアン …… 羽田紀子
コンサートマスター …… 田中靖人	制作 …… 久保慶恵
副コンサートマスター …… 宮村和宏	パーソナルマネージャー …… 富田真里那
インスペクター …… 堀風翔	総務 …… 牧野正純、佐原由起、勝川本久
企画委員 …… 上原宏	広報 …… 遠藤敏、荻沼美帆、今村俊博
	チケットサービス …… 荻沼美帆
	庶務 …… 出塚和良、小野寺龍一、石川清
	経理 …… 水本孝枝

Gold Members サポーターズクラブゴールド会員(3口以上)の皆さま

五十音順、敬称略で掲載させていただいております。(2020年10月31日現在)

金子 毅	平山 博通
ピロッタ 真緒	望月 良貴
横田 陽一	

PR Supporters PRサポーターの皆さま

TKWOのチラシやポスターの設置にご協力いただいている皆さまをご紹介します。

店舗等一覧

敬称略で掲載させていただいております。(2020年10月31日現在)

アルル音楽教室	宮地楽器 小金井店 ANNEX
(株)コマキ楽器 ジャパンパーカッションセンター	(株)池袋音楽学院
ブレーン(株) 広島本社	(株)CAFUAレコード
ブレーン(株) 東京支社	吹奏楽webマガジン「Band Power」
(株)管楽器専門店ダク	吹奏楽専門ショップ「Band Power」
ミュージックスクール「ダ・カーポ」	大江戸シンフォニックウィンドオーケストラ
(株)セントラル楽器	ドレミファクトリー
日本大学芸術学部音楽学科 江古田校舎	フルート専門店テオバルト
管楽器雑貨専門店pitch	アトリエ・エム株式会社
ザクラリネット ショップ	葡萄房 by THE CAMEL
新潮講座・神楽坂教室	やしろ食堂
(株)ドルチェ楽器 管楽器アヴェニュー東京	吹奏楽酒場「宝島。」
(株)永江楽器水戸	金寿司
野中貿易(株)	フローリスト花六
(株)ヤマハミュージックリテイリング 横浜店	中華 大栴

個人のお客様

渡邊 直子	櫻野 哲也
-------	-------

PR
サポーター
とは？

東京佼成ウインドオーケストラではPRサポーターを募集しております。

東京佼成ウインドオーケストラの活動をサポートしていただけませんか？
ポスター・チラシの掲示、チラシを設置していただける店舗・公共施設を募集しております。(個人も含む)
ご協力頂ける皆さまのご芳名は定期演奏会プログラム・オフィシャルサイトに掲載させていただきます。

TKWO オリジナルグッズ好評販売中!

ほかにも多くの商品をご用意しております。

ご購入・詳細はこちら



Original goods

60周年記念グッズ



チケットホルダー

1冊 800円

ステッカー

1枚 100円



新商品
登場!

アクリルキーホルダー

1個 300円(全39種)

※ランダム封入、商品の交換はできません。
※個別販売はしていません。イラストは選べません。

Tokyo Kosei Wind Orchestra



会員募集中

SUPPORTERS CLUB

東京佼成ウインドオーケストラ サポーターズクラブ

東京佼成ウインドオーケストラ(TKWO)はあなたのウインドオーケストラです!!
TKWOをもっと身近に感じて応援する仲間になりませんか?
サポーターズクラブに入会して、もっとTKWOの音楽を
より多くの皆さんに届けられるように活動を支えてください!

詳細はこちら



刊行決定!

東京佼成 ウインドオーケストラ 60年史

◆定価：2500円(予価) ◆発行：株式会社新潮社図書編集室

2021年2月、全国大型書店、TKWO事務局などで発売予定。

「東京佼成ウインドオーケストラ」(TKWO)は、
1960(昭和35)年5月に、「15名」のメンバーによって結成されました。
その日から、早や60年、TKWOは、日本の吹奏楽界をリードする
プロ吹奏楽団として多くのファンを生んでいます。
その60年の日々を紹介する記念書籍が発刊されます。
全定期演奏会の内容、地方公演も含めた全活動記録、委嘱作品、
さらには膨大な録音データ、
創設時の意外な裏話を取材したドキュメントなど、豊富な内容となっています。
どうぞ、お楽しみに、お待ちしております。



結成3年目、第1回定期演奏会の模様。1963(昭和38)年3月10日、杉並公会堂にて。指揮は、創設者のひとり、河野貢造・副楽長。
この日は、ロッシニ《セビリアの理髪師》序曲、チャイコフスキー《スラブ行進曲》などが演奏された。

東京佼成ウインドオーケストラ

2021-2022 定期演奏会スケジュール

第153~157回 定期演奏会

▶ 場所：東京芸術劇場コンサートホール
▶ 開演：14:00(開場:13:00)

第153回 定期演奏会

2021年 4月29日(木祝)
指揮：ユベール・スダーン



- 13管楽器のためのセレナード 変ホ長調 作品7 /R.シュトラウス
- アルプスの詩/F.チェザリーニ
- 交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快なはずら」/R.シュトラウス
- 歌劇「薔薇の騎士」組曲/R.シュトラウス

第154回 定期演奏会

2021年 6月5日(土)
指揮：原田慶太楼



- フローレンティナー・マーチ/J.フック
- 吹奏楽のための抒情的「祭」/伊藤康英
- 「指輪物語」よりI・III/J.テ・メイ
- ブルーシェイズ/F.ティケリ
- 古いアメリカ舞曲による組曲/R.R.ベネット
- ウェディング・ダンス/J.プレス
- イェ・バンクスとボニー・ドゥーンの川のほとり /P.グレインジャー
- 行進曲「ローリング・サンダー」/H.フィルモア

第155回 定期演奏会

2021年 9月23日(木祝)
指揮：大井剛史(正指揮者)



- 主題と変奏/A.シェーンベルク
- 交響曲 第3番/V.ジャンニーニ
- パッサカリア/A.リード
- 交響曲 第3番/A.リード

第156回 定期演奏会

2021年 11月23日(火祝)
指揮・クラリネット：ポール・メイ



- クラリネットのための軍隊協奏曲/C.ベールマン
- クラリネットのための第1狂詩曲/C.ドビュッシー
- 交響曲 第3番 オルガン付き/C.サン・サーンス 他

第6回 大阪定期演奏会

2021年 11月24日(水)
指揮・クラリネット：ポール・メイ

■ 場所：ザ・シンフォニーホール
■ 開演：19:00(開場:18:00)
※曲目・出演者は第156回と共通

第157回 定期演奏会

2022年 2月26日(土)
指揮：飯森範親(首席客演指揮者)



- 献呈序曲/C.ウィリアムズ
- アルメニアン・ダンス Part I, II/A.リード
- TKWO委嘱作品(世界初演)/長生 淳
- 交響曲 第1番「アークエンジェルズ」/F.チェザリーニ

※2021-2022シーズン以降の各チケットの発売日は決まり次第、オフィシャルサイト等で発表いたします。